

# かまきり

大阪 二年 ともや

九月二十二日朝、学校へ来るとそでわきさんが、  
「きのう、三年生にかまきりとられた。」

と言いました。ぼくはすぐ、教室の後ろのケースを見ました。

学校の花だんでとった、めすのかまきりがいませんでした。ぼくは、  
新田と田ざきとふくいが来るのをまって、

「三年生にかまきり、とられた。」

と知らせました。田ざきとふくいは、

「めっちゃはらたつな、とりかえしに行こか。」

と言いました。ぼくは、

「いつ、とりかえしに行く。」

と聞きました。田ざきとふくいは、

「二十分休み。」

と言いました。

一時間目と二時間目、ずっとはらたつなあと思っていました

二十分休みに、ぼくは新田に、

「かまきり、とりかえしに行こう。」

と言いました。新田は、

「うん。」

と言いました。

四人ではらをたてながら、三年生の教室に行きました。ろう下から  
教室の中を見てると、知らない男の子が三人来て、にらんできました。  
それから、

「何。」

と言いました。ぼくはちょっとかたまりました。でもぼくは、

「かまきり、かえせ。」

と言いました。ドキドキしました。はじめに出てきた一番大きい子が、

「とってないわ。」

とおこって言いました。ぼくは、

「きのう、かまきりとったやろ。」

と言いました。また一番大きい子ににらまれました。ぼくは、

「かえせ。」

と言いました。

「とってないのに、いうなよ。」

と一番大きい子が、まん中で言いました。

「とったから、ゆうてんねんやろ。」

とぼくはまた言いました。すると、右にいた子が、

「かえすわ。」

とケースから茶色のぜんぜんちがうかまきりを出してきて、新田の手の上におきました。ぼくらのかまきりは、みどり色で、おながえんびつを二本合わせたぐらいの太さでした。ぼくは

「それちがう。」

と言いました。右の子が、

「それや。」

とえらそうに言いました。

「ちがうでえ。」

とぼくは言いました。ふくいと新田が、

「ケース見せて。」

と言いました。左の子が、

「いや。」

と言いました。ぼくは、

「たしかめるから、見せろ。」

とおこって言いました。まん中の子が、

「わかった。」

と言って、ケースをもつてろう下に出てきました。ケースにはかまきりが二ひき入っていました。ぼくらのかまきりもいました。

「こっちや、こっちやんか。」

と言いました。ぼくは、

「これとかえて。」

と言いました。まん中の子は、

「いやや。」

とケースをりよう手で上からおさえました。

「そっちが本当やから、ゆってんねん。」

とぼくは言いました。左の子が、

「さっさと帰れ。」

と言いました。ぼくは、

「かえてくれるまで、帰れへん。」

と言いました。右と左の子がケースをもって、三人の子は教室の中に

入って、ガタンとドアをしめました。ぼくたちはろう下から、

「かえろ。」

とどなりました。中から、

「もう、さっさと帰れや。」

とこえがしました。ふくいがかまきりを見ながら、

「前より体が小さいし、オスやし、元気がないな。」

と言いました。田ざきとぼくは、

「そやなあ。」

と言いました。

ガチャガチャとドアに中からかぎをかける音がしました。その時、

チャイムがなりました。ふくいと新田が、

「もう、帰るか。」

と言いました。

ぼくたちはしかたないから、二年一組の教室

にむかって歩きだしました。かいだんで新田が、

「前のよりよわってる。」

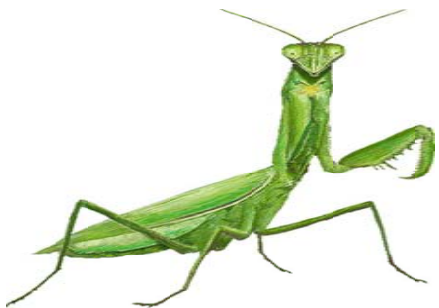
とかまきりをさわりながら言いました。かまきり

りはじつとして

新田の手にとまっています。

教室に帰ってもぼくは、はらがたつてたまり

ませんでした。



(指導 増田俊昭)